

# 2022年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2023年1月18日

学部・学年 経済学部三年

学籍番号                     

氏名 粕谷 勇輔

1. プロジェクト名

SDGs絵本プロジェクト

2. 活動期間

2022年 7月 4日 ~ 2023年 1月 31日

3. 主な活動場所

愛知県・東京都・福岡県

4. 参加者

4名

## 5. プロジェクトの活動報告

### ◆プロジェクトにおける活動内容と目標

#### <活動内容>

絵本「きみだけのいろ ～みんなを すくう まほうの たべもの～」を制作し、全国の子どもたちに寄付する活動を行なった。

活動の動機は、一昨年、多様性をテーマにした絵本をクラウドファンディングで制作した際に、絵本を通して、子どもたちにメッセージを伝えることができた手応えを感じたからだ。前作よりも具体的に SDGs の目標に関連した内容にし、子どもたちが楽しみながら SDGs を意識した行動を取れるようになると良いと考え制作した。

今回の活動にあたって、告知/読みきかせにはフリーアナウンサーのほりえっていさんに協力していただき、ネスインターナショナルスクールにて読み聞かせを行なっていただいた。また、制作期間中に株式会社スマートエデュケーション様からご招待いただき、幼児教育カンファレンス 2023 に参加することができた。そこではひろゆきやソヤマンなど、多くの方から幼児教育について学ぶことができた。これらの人との交流やイベントで得た知識を MTG 等で共有し、絵本に活かす方法を模索していった。そして、2022 年 12 月末に絵本を完成させることができた。その後は、クラウドファンディングの支援者様や、以前寄付をさせていただいた施設様を中心に 500 冊以上の絵本を 1 ヶ月の間に全て手作業で寄付した。残り半数の絵本は、これから参加/企画予定のイベント等で配布予定だ。

#### <目標>

絵本を通して SDGs (フェアトレード) の認知度を上げること。

ストーリーではフェアトレードについての基本的な知識を簡単に説明すると同時に、実際に子どもたちが手にとるチョコレートがフェアトレードチョコレートになったら良いなどという思いから、イオントップバリュ様のひとくちミルクチョコレートのイラストを掲載し、購買につながるよう設計した。

### ◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

#### <中間報告時に抱えていた課題>

イラスト制作が期間内に終わるかどうかが課題だった。

そこで、全てをいついつまでに終えるという長期目標から、何枚目までをいついつまでに終えるといった短期目標の設計に変え、短いスパンでサイクルを回せる状態にしたところ、なんとか期間内に仕上げる事ができた。

#### <対応結果>

無事 2022 年内にイラストおよび絵本が完成した。

しかし、もう少し早く完成していれば、イオン様とのイベントも期間内にできた可能性もあったので、今後はあらかじめ長期目標と短期目標をどちらも設計し、自分だけでなく、メンバーも短期スパンで仕事を回していけるようにしていきたいと思った。

◆プロジェクトの目標達成状況（活動内容等を具体的に記入してください）

<達成状況>

絵本は 1000 冊製本し、すでに半数は配布済み。  
イオンさんとのイベントはおそらく来月以降になる見通しなので、そこに控えて約半数の絵本を用意している。

イオンさんとは、お客様相談窓口からチョコレートのイラストの掲載許可を頂けないか打診したところから交流が始まった。フェアトレードチョコレートについての絵本を制作する上で、実際に販売されているチョコレートを掲載することが購買活動へつながる一番の近道だと考えたため、掲載許可を頂けないかお願いした。その際に、絵本によってフェアトレードチョコレートの認知度が向上することや、その絵本にイオン様のチョコレートを載せることで、どんなメリットがあるのか伝えることを意識してプレゼンをした。その結果、ご快諾いただき、絵本にイラストを載せる許可をいただき、その後、イベントの企画にも前向きなお返事を頂けた。今後は、イオン様が連携している少年団等と連携して、子どもたちに読み聞かせができるイベントを企画している。また、参加特典として絵本の配布も検討している。

自己評価による達成度： 90%

◆改善点、やり残したこと

絵本の製本をもう少し早くできるように設計できていれば、期間内にイオンさんとのイベントが実施できたのではないかなと反省している。完成時期が 12 月後半だったため、年末年始と被ってしまい、イベントの候補日程が限られてしまった。

12 月の頭には絵本が完成している状況にできていなかったことが後悔である。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか

【絵本制作の観点から】

改めて、エンタメの力は無限大だと感じた。こういった環境的な問題は、当事者意識を持たなければなかなか行動に移せないのが現状だ。そうした中で、子どもたちにエンタメの力を使ってこうした問題を伝えることで、なぜフェアトレードチョコレートを買ったほうがいいのかを理解した上で、このチョコレートがいいと言ってくれる子どもが増える。そしてそのループを通して徐々に環境問題に対する日本全体のリテラシーを向上させていくことで、エンタメの力で SDGs も解決できるのではないかなと思った。

【寄付の観点から】

今回も全て手作業で寄付をした。前作と違い、リストがあった分新規の寄付先を探す必要はあまりなかったが、1 ヶ月という限られた中で、手作業で寄付をするのはとても大変だった。しかしながら、毎日のように送られてくる、絵本を手を持った子どもたちの写真や手紙を見ると、やって良かったなと思った。

◆今後チャレンジしていきたいこと

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

2 作目はフェアトレードについてがテーマだったので、小学生～中学生にすごく刺さっているという手応えがあった。その理由は、丁度小学校の教科書でフェアトレードについて学ぶ機会があり、子どもたちが少しだけフェアトレードについての知識があるからである。

実際、寄付先の施設から感謝状が届き、中学 2 年生の女の子からの手紙に、「これからはフェアトレードチョコレートを探して買おうと思った。」と書いてあった。

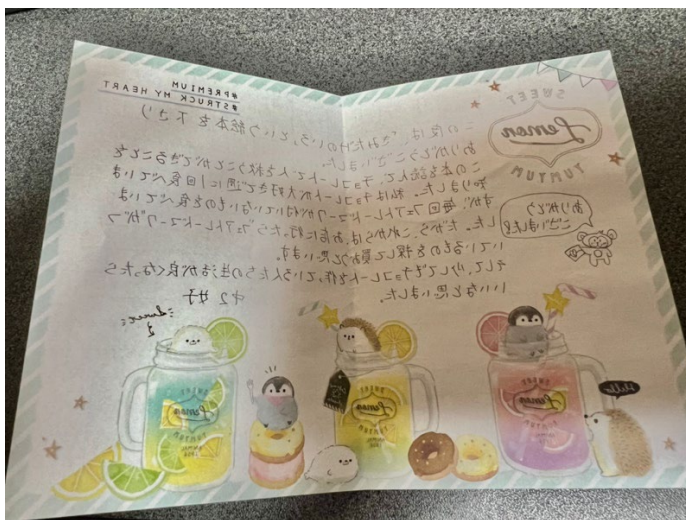
◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。

・ほりえっていさん(フリーアナウンサー)にネスインターナショナルスクールにて読み聞かせをしていただいた。(事務所名掲載不可)



・子どもたちから手紙をいただいた。



- ・読み聞かせをしてきている写真
- ・絵本を手を持っている写真



- ・イオントップバリュと契約を交わし、絵本に掲載できた。



絵本の内容

<https://docs.google.com/document/d/1C3sBHxsuEry7C7tvymvtEKz6EpPGzL00ZTstXAe-gcU/edit?usp=sharing>